

令和3年度の学校評価結果と改善の方策をお知らせします。
別添で保護者と職員の結果を掲載しました。ご覧ください。

1 本年度の重点目標

児童生徒が見通しをもち、自ら進んで主体的に行動する人を育てる

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

重点的に改善が必要な項目等について、次に掲載します。
なお、結果等にある項目内容については、別添の資料を参照してください。

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
平均値が最も低く重点的な改善が必要な項目	平均値は3.2ポイントである。 最も低い数値は2.6、項目24「知的障がい児の教科指導や自立活動、ICT機器を活用した授業改善への取組」である。 また、項目5「自立に向けた指導のための教材の準備を十分にできる環境が確保され、担当する授業時数も適切な配分となるよう改善している。」について学部間で評価の差がある状況である。 ※項目30「PTA活動」についてはコロナ禍において活動が困難であったことに起因している。	【保護者】 平均値は3.3ポイントである。 最も低い数値は項目5「卒業後の進路に関する情報（高等部の受検を含む）がわかりやすく説明されていますか」の2.6ポイントである。 また、項目8「児童生徒が」学習で身に付けた力を普段の生活で発揮しているか」について約2割の否定的な回答がある。 ※項目11「PTA活動」については、コロナ禍において、活動が困難であったことに起因している。
改善方策	自己評価で最も低くなった項目24並びに学部間評価にばらつきのある項目5については、本年度の重点目標にある、自ら進んで主体的に行動する人を育てるための、教育活動の改善充実に向け、自立を促す適切な指導体制の見直し、校内研修における授業改善の積極的な取り組みを次年度も継続して実施することにより、児童生徒の学習指導の改善充実に向けた取組を促進する。 また、項目24に関わり、職員の専門性向上のために、道教委や道立特別支援教育センターで実施する専門性向上の研修の積極的に活用し、研修成果を指導に還元する取組を促進する。 保護者評価は概ね3.1以上の評価を得られてはいるが、項目8の結果を踏まえ、学部間の教育内容の整理を「何を」「いつ」「どのように」「学ぶ」かの視点を明らかにするとともに、各学部で身に付けた力をどのように生かすか、保護者に分かりやすく説明する。また、PTAと連携し、諸制度や各学部間での特色のある教育活動（どのような力が身に付くのか）について周知する機会を積極的に設定する。	
自己評価の数値よりも学校関係者の数値の方が低い項目	その他の項目において、保護者からの評価が下回る項目はない。	
改善方策	全体的には平均値を上回る結果となっているが、児童生徒の教育内容のわかりやすい説明や職員の接遇について意見が寄せられていることから、児童生徒への指導方針のわかりやすい説明や丁寧な外部との充実などについて、集合研修や個別研修、保護者懇談を通して、改善する。	
自由記述	「危機管理」について評価を得られた一方、「学校経営」については、業務量の偏りの改善「教育課程」については、つながりのある教育活動や適切な指導時数のあり方、「教育内容・方法」については、専門性向上や人権に配慮した指導の更なる改善を求める意見がある。	【保護者】 感染症対策をしっかりとした教育活動の充実に対する要望や職員の言葉遣いと指導のあり方、施設設備の改善についての意見がある。
改善方策	意見を参考に校内体制の改善や保護者の意見を踏まえた学習指導等における人権意識の向上に向けた取組の充実、感染症対策の徹底などを継続して行う。	
公表方法	本校公式ホームページに集約結果等を公開している。 PTAの役員会並びに全体懇談会において、説明し、意見等を拝聴している。 学校評議員等に文書を配布の上、説明し指摘、意見等を拝聴している。	

3 添付資料

- (1) 資料1 令和3年度教職員・保護者による学校評価の集計結果及び保護者の自由記述